

新年の懇親会を自粛

災害地に義援金を贈る

兵庫県南部地震 被災者偲びつつ

京都府仏具協同組合

京都府仏具協同組合（安藤宇助理事長、京都市下京区七条通西洞院西入マルダイビル）は、新年恒例の商部、工部全体の初顔合わせとなる講演会及び表彰式を、一月二十四日京都市東山区の都ホテルで開催した。

例年、続いて多数の来賓を交えて懇親会が行なわれるが、兵庫県南部地震の多くの被災者を悼む意味から自粛された。また、講演会より先に開かれた理事会では、懇親会費用から百万円を災害地に贈ることが決められ、表彰式を前に組合員に報告され、温かい拍手が寄せられた。

講演会は、午後四時十五分から開始。京都市上京区の堀川病院顧問の早川一光氏を講師に迎えて約一時間にわたり行なわれた。

続いて、表彰式に移り、最初に安藤理事長が挨拶。兵庫県南部地震で五千人以上もの死者が出たことへの哀悼の意を述べたあと「理事会で義援金として百万円を被災地に贈ることを決めさせていただきました。平成七年度の事業につきまして二つを考えております。一つは、この四月に開校されます京都伝統工芸専門校への講師派遣の依頼がきており、この対応を検討したい。もう一つは、組合員の相互親睦のために三種の同好会を発足させることにしました。私も理事長を務めさせていただき二期、四年目に入ります。本年はその総仕上げのつもりで取り組んでいきたいと思っております。ご協力よろしくお願いします」と述べた。

表彰式は、昨年八月に開かれた「京仏壇、京仏具技術コンクール」で優秀な成績を収めた九人に対して行なわれ、安藤理事長から受賞者一人々々に表彰状が手渡された。

受賞者は次の通り。〔経験年数十二年以上〕近畿通商産業局長賞＝上田稔（木工部）京都府知事賞＝宮崎伴文（漆工部）京都市長賞＝平城輝男（箔押部）伝統的工芸品産業振興協会賞＝野田稔（漆工部）京都府中小企業団体中央会会長賞＝荒堀秀樹（金属部）〔十二年未満〕京都府知事賞＝泉嘉人（木工部）京都市長賞＝長谷川聡（金属部）伝統的工芸品産業振興協会賞＝原田桂一（鋳部）京都府中小企業団体中央会会長賞＝高田裕士（鋳部）。

最後に、若林靖博副理事長が閉会の挨拶を行ない「組合事業も良い方向に向かっていることを報告させていただきたい。例年懇親会では、来賓を交えて皆様と和やかな一時を過ごさせていただいてきましたが、今回は自粛させていただきました。そして僅かばかりですが義援金を贈らせていただくことになりました。この運動が京都の各分野にも刺激を与え、広がってくれることを願っております」と締めくくった。

同組合では、今年度最大のイベント「京仏壇・京仏具展」を、二月十日から十二日まで、京都市伏見区のパルスプラザで開催する。春の彼岸を控えて、組合員一同が結束してこの事業を推進していく。

義援金を贈ることを報告する安藤理事長〔写真は省略〕

地震対策に論議集中

全中建 京都支部の新年会

東京都中央区に本部を置く中小建設業界の全国組織である社団法人全国中小建設業協会（略称・全中建）の京都支部（金森幸太郎理事長、京都市中京区寺町通御池下ル東側下本能寺町五一〇・梅安ビル四階）の新年定例会が、一月二十日、中京区のすし店で、約百人の会員が出席して開催された。

全中建京都支部は、昭和五十二年に本部組織に入会、いらい組織強化をはかり、会員数は現在百三十社を超える実力支部に発展した。

定例会では、昨年末に全中建京都支部から自由民主党京都府支部連合会の野中広務会長に提出した「要望・意見書」の京都市関係の事項について、京都市の担当部局からの回答書が出席者に配布され、検討された。

要望事項は▽入札参加資格審査申請における申請書の内容・書類の簡素化▽官庁の市南部への移転による南部地区の発展▽桂川、宇治川への橋の増設▽市周辺への大駐車場の確保▽現在工事中の地下鉄の早期完了と市街地外周地下鉄の計画等であった。回答書には、これらの要望事項に対する、現状の市当局の方針が簡潔に記されていた。

定例会の後、懇親会に移ったが、隣の兵庫県で十七日に発生した、わが国が戦後初めて体験した大都市直下型の大地震に対する同会の対応策などに論議が集中して、これまでの定例会とは様相が一変した。

兵庫県南部地震で亡くなった人に黙祷をささげた後、全中建京都支部から兵庫県南部地震の義援金十万円と、当日出席者の有志による義援金十二万円が集められた。

懇親会の挨拶は、社寺建築の奥谷組の会長である金森幸太郎理事長が開会の辞を述べその後、来賓祝辞が続いた。

来賓祝辞は、この日から国会が始まったため欠席した野中広務自治大臣の代読を井嶋隆秘書が、奥田幹生衆議院議員の代読を菅谷寛志秘書が読み上げた。さらに山本直彦府議会議員、高橋泰一朗市議会議員、青木善男市議会議員が祝辞を述べた。いずれも兵庫県南部地震の対応を、同支部の関係者が、いかにしていけばよいかという挨拶に終始していた。

この席で、兵庫県南部地震に対する建設大臣からの被災復旧に関する要請を受けて、同会京都支部は、会員団体の大阪府中小建設業協会を窓口に対応を図っていくことが決められた。

新年定例会で開会の辞を述べる金森理事長【写真は省略】